

ことば村・ことばのサロン

■2022・12月のことばのサロン

▼ことばのサロン

「日本語教育～授業スキルと授業センス」

- 2022年12月10日（土）午後2時～3時
- Zoomによるオンライン開催・対談
- 話題提供：笈川幸司先生（日本語教育・日本語教師）
- 司会・対談：井上逸兵（ことば村村長・慶應義塾大学）
- 参加：49名

対談要旨

司会：今日は日本語教育・日本語教師で、中国で大ブレイクした笈川幸司先生をお迎えしました。私も個人的にもとても楽しみにしていたサロンです。ご存じの方も多いと思いますが、笈川先生は日本語教師としてすごい方だし、また笈川先生の人生そのものがすごいです。後でご紹介しますが、出演なさったNHKの番組「逆転人生」で日本語教師としての素晴らしさと、山あり谷ありの人生を拝見して、涙が出そうになりました。

<https://oikawakohji.com/event/oikawa/>

今日は日本語教育がテーマですがその辺も伺えればと思います。よろしくお願いいたします。

笈川：よろしくお願いいたします。

中国で日本語教師に

司会：そもそも、何故中国なのか、ということですが。「逆転人生」によれば、中国の方と婚約して中国へ行ったものの婚約は破棄、そのお相手の親御さんが面倒を見てくれたという……。

笈川：そうですね、中国の大学に留学中にすでにご家族を知っていて、日本に5年半くらいもどってから結婚することになって再度中国に行ったわけです。婚約破棄に一番びっくりしたのは彼女のご両親でした。心ある方達なので、時間をかけて関係を修復しましょうということになって。

司会：それから、日本語教師をやってみないか、と声がかかって、特に日本語教師のトレーニングを受けたわけではなかったけれど現場に行った、ということですね。

笈川：中国は、自信が無いことを聞かれても自信が無いと言ってはいけないところなのです。

できますか？と聞かれれば、もちろん出来ます、と答える。

司会：とりあえずイエスと言わなければならない文化、ということですね。

笈川：そういうことです。やってみて実際に批判された時には、すみません、失礼しました！と辞める感じです。2週間ほどのサマーキャンプでしたが、初日の授業が結構評判が良くて。思ったよりうまく行って批判はありませんでした。

使える日本語を教える

司会：そこが驚きで。私がいきなり日本語を教えろと言われると、たぶん途方に暮れると思います。日本語教育のトレーニングを受けてメソッドを身に着け、どこから入るか考えるのが普通で、そのあたりは大丈夫だったのですか？

笈川：教科書をその日にいきなり渡されて、これで何かやってくださいと言われたのですが、その教科書の内容が何か変だったのです。日本語教師の資格があり、日本語教育の世界に居る人にはたぶんその不自然さがわからなかったのでは、と思います。

(教科書の内容を共有表示)

教科書は日本でも使われている「みんなの日本語」です。教科書の文章に丁寧な言い方とくだけた言い方を例示しました。

先生に対しては「こちらは本です。」という丁寧な言い方が良いと思うし、友達に話す時には「あ、これ、本だよ。」の方が良い。教科書の言い方は、いつ使うのだろうと思ったのです。

司会：なるほど。

笈川：「これは本ですか。」と聞かれたら、「いいえこれは本ではありません。これは辞書です。」とは言わない。「あ、これは辞書です。」と言う。あるいは、「ううん、これは本じゃないよ、辞書だよ。」とか。学生に、教科書は覚えても良い、でも教室の外では絶対に使わないでね、というのが授業の最初だったのです。

面白かったのは、学生たちがこれを勉強することで教科書が覚えやすくなったと言ったことです。テストの成績もすごく良くなったと。それで授業の評判が良くなったのではと思いました。

司会：教え方はどんなふうですか？

笈川：英語にもある教え方かもしれませんが、教科書を読んで、「先生には？」、「友達には？」と100本ノックのように問いかけ、学生が答える。1回目は優秀な人しか答えませんが、3回4回繰り返すと皆大声で答えてくれ、その場で暗記してくれる。

お笑い芸人のノウハウを生かす

司会：ご紹介しようか迷いましたが、お笑い芸人をなさっていたのですよねよね。お笑い芸人は何年くらい？

笈川：4年半くらいです。

司会:NHKの番組によると、お笑いのノウハウが日本語教師をなさる上で生きていますか。実際にはどのような形で今役に立っているのですか。

笈川:教師として授業をする上でお笑いのテクニックはたくさん使えるところがあります。日本語教師に限らず、学校の先生は思い通りにならなかつたり、学生が言うことをきかなかつたりすると、よく不機嫌な顔を見せたり怒つたりしますよね。あれは能力がないからだと思うのです。お笑いをやっていたので、面白く返したり、盛り上げることもできる。学生の生意気なひとことを、「すばらしい、みんな真似をしよう。ただし、その言い方は先生にはしちゃだめだよ」と言えるわけです。

司会:お笑い芸人の時は、お客さんに対する接し方だと思うのですが、学生に対する接し方とかなり共通するところがあるということですね。

スピーチコンテスト優勝に導く

司会「逆転人生」で知ったことですが、名門大学の北京大学開催スピーチコンテストで、いきなり優勝させろ、と言われた。ほとんどミラクルのように思えますが、引き受けた時、自信はおありだったのですか。

笈川:まず、自信があるないは考えなかったのと、先に、全国レベルの日本語コンテストで優勝者を出している北京第二外大、北京外国語大学と親善試合をさせてもらいました。清華大学と北京外大がやったときには北京外大のボロ勝ちだったのですが、ああ、これなら大学2年くらいで行けるかなあと思って。それから2ヶ月後に北京大学とやったのですが、いい参考例を見せてもらった後だったので、その丸パクリ、完コピです。作文の書き方のパターン、発表するときの表情とか、北京外大のいい学生の何カ所かを盗んでやりました。

司会:語学って、基本的に「真似る」があると思いますが、その辺をうまく取り入れられたということですね。

身体を使って学ぶ

司会:中国の学生さんってコンテストに出る場合など、よし！と乗ってくる感じなのですか、それとも大丈夫かな、という感じか。日本の学生さんはやりたい気持ちはあるけれど、いつまでたっても自信が持てない、みたいな。日本の学生さんの特徴かなと思いますが、中国の学生さんはどうですか。

笈川:同じだと思います。最近ようやく、高校生がスピーチ大会に出てメダルを取ったとか、ありますが、当時、20年位前ですが、北京大学などの学生が得意だったのは筆記試験です。表現力は無かったように思います。

司会:アジアの勉強の仕方は、伝統的に試験のためにするということがありますよね。そういう中で、インタラクティブな、人とのやりとりを通しての勉強が笈川先生の方法だと思います。例えばジョギングをしながら、あるいは握手をしながら勉強するとか、身体を使うこと、それが笈川メソッドの特徴的なところだと思うのですが。ジョギングしながら勉強法は

どのように思いつかれたのでしょうか。

笈川：あれは思いついたというより、学生と仲良くしたいなと思って始めたことです。走っている間ずっと「すごい、すごい、いいね！」ばかり言っていると、学生達は最初、しどろもどろにせよ、話してくれる。繰り返し話してもらおうと上手になるというイメージがありましたので。

司会：握手をしながら、というのはどういうことでしょうか。

笈川：あれはメソッドというより学生時代に海外のいろいろな所に行って英語を話した経験です。例えばイタリアのユースホテルで知り合った外国人からの質問にあまりうまく答えられなかったのに、スイスのホテルで同じ質問をされて、結構流暢にしゃべれている、すごい！と。今度フランスに行くと、お前の英語は上手だなと言われた。結構自信がついて、アルゼンチンの 190 cm くらいある学生と握手をしながらしゃべったのです。すると、恥ずかしさが消えたというか。廻りの雑音がびたっと消えて、集中してその人のことばがよく聞こえる。その体験があったので、これは授業に使えると思ったのです。やってみると学生たちも廻りの雑音が消えてやりやすいと言っていました。

司会：私はこれまで考えたことがなかったのですが、お話を聞くと合理的ですね。握手という良い距離にいて、フォーカスは相手に行き、他に気が散らない。

「型」を教える

司会：一方で、笈川先生のクラスは大人数ですよ。流行の語学教育ではクラスサイズは小さい方が良くと言われる。ですから私には衝撃でした。大人数で成果を上げられている、それはどのように可能なのか。

笈川：最初の 10 年間、大学の先生をしていたときは 20 人程度、同時に清華大学の理工系学生向けの授業は 50 人教室に聴講生含め 70 人くらい。で、70 人では普通の授業は無理だと思って握手の授業を始めたのです。その評判が良かったのです。

この教材を見てください。(画像②共有)

これは、ハンバーガーですが、私は「型」を学生達に教えていて、「型」の部分はパン、自分が話したい「内容」はハンバーグ、何枚でも良いしチーズやレタスが入っても良い、ハム一枚でも良い。

これは上級レベルで、ビデオを見て意見を言おう、という「型」です。(画像③共有)
私が学生を指名する。するとルールとして、学生は必ず

「はい、ご指名いただきありがとうございます」と言う。

「さきほど見ていただいたビデオについて、一番気になったところをお話します」

「みなさん、ビデオの 30 秒目あたりをごらんください」「そのセンテンスを読み上げます」

(それぞれが選んだセンテンスを読む)

「みなさん、ここが私のポイントです」

「私はこの意見に賛成します～反対します」(好き嫌い、共感できる、できないなど、選択)

「理由はひとつ（ふたつ、みつつ）あります。聞いて下さい」

「このセンテンスを見て思い出したことがあります」（エピソード）

（まとめ）「私が気になったのは～です」「このビデオを通して学んだことは～」

「以上が私の考えです。どうもありがとございました。」

最初はこれを見ながら練習しますが、握手しながら 10 問 20 問やるうちにこの「型」が頭に入るの見なくてもできるようになります。この授業法を知らない他の日本語の先生が見るとびっくりするのです。私の学生は何年も勉強しているのに、ひとことふたことしか言えない、たった 10 日くらいで何故こんなに自分の意見が言えるのか、と。それはパンがあるからなのです。

10 日間やっていると、いろんな質問に対していろんなパターン、いろんな「型」を使って話をするできるようになります。しかも同じ意見を何度もしゃべっていると流暢になって自信がつく。

政治家や落語家からも学ぶ

笈川：私は政治家の秘書をしたことがあります。政治家がスピーチ上手なのは才能ではなく、同じ話をいろんな所でしているからです。これを盗もうと思いました。

学生達もさっきの王さんの話が良いと思えば盗むのです。取り込んで組み合わせで自分の意見を作る。やりなさい、とは、私は言わないのですが人間はみなそうする。語学でも優秀なやり方だと思います。

司会：語学教育は短文レベルになりがちですが、笈川先生の教育方法は連続体ですよ。英語教育で、誰かに話しかけてバイバイと言うまでをパターン化してやってみなさい、という方法と同じ考え方ですよ。

笈川：2001 年、2 年には日本で探しても無かったのですが、中国にもどって、ある学生が非常に上手に発表したので、学び方を聞いたところ、英語教育のパターンを日本語に訳していたのです。清華大学の学生は英語も出来たので、日本語のプレゼンテーションの本を 10 日間で作ろう、ということになった。英語の和訳を私が手直ししてプレゼンの教科書にしたことがあります。

司会：なるほど。スピーチなどひとつのまとまりを話すという力を、日本は伝統的に育ててこなかった。「逆転人生」で拝見すると、TV 的にはビフォーアフターみたいな感じで学生が凄く上手に発表できるようになりますよね、驚きでした。芸人や議員秘書をされていた時の観察をもとにアイデアを非常に巧みに取り入れていらっしゃる。やっぱりいつもアンテナをはっていらっしゃるのですか。

笈川：それはしています。たまに中国に落語家さんがいらっしゃって、学生たちと一緒に食事をする機会があると質問攻めにする。落語家さんによると、普通、句読点のところで止めますが、そうではなく、息が止まる場所までずっとしゃべり続ける。句読点ではなく、止

まるはずでないところで止まると、聞いている人の気持ちがあんと引きつけられる。それが大事だ、と。それを聞いて、練習しよう、とその場で練習しました。朝まで生テレビみたいな番組で「〇〇です、〇〇です、しかし！」と止めると、もう人が入ってこれらない、みたいな。そういう練習をしていました。

司会：それは、それは！今、メモを取っています！

笈川楽譜

司会：中国語には四声（ピンイン）以外に軽く発音する軽声があり、それを利用した「笈川楽譜」ですが、具体的にはどのような指導をされているのですか。

笈川：学生達が「笈川小楽譜」と名付けてくれたのですが、中国語のピンインの日本語版なのです。

（画像共有）

この〇〇〇とついているのが軽声、斜め下に下がった記号がアクセント、上に線があるのはまっすぐ行く平板型。教え子たちが普通に日本語を読むと全てにアクセントを付け、「以上デッす。」になる。そこで、この軽声を使って、「『い』の後は全部軽声だから」と教えると、自然な発音で「以上です。」と言えるのです。

司会：これはすごい。これはどういう気づきだったのですか。

笈川：私は世界中の日本語教師がこういうものを作っていると思っていました。10 数年経ってから、こういうものを作っている人はいません、と言われて、初めて、ああ、そうなのか、と。

司会：特に中国語話者には軽声という概念がずっと入ってくるだろうと思いますね。英語ならストレスとか、強勢、弱化するということなのでしょうが、これはすごくきれいにできていて。中国語話者に特化した発音指導ということでしょうか。

笈川：コロナの影響で、インド、東南アジア、欧米の学生を教えるようになった時、これは本当にわかりやすいと言われました。

半日の雰囲気の中で

司会：尖閣諸島の国有化問題がきっかけで反日的雰囲気が高まる中、笈川さんは日本語のイベントなど展開されていましたが、心理的にも勇気が必要だったのではありませんか。

笈川：周囲にも言われましたが、私としてはどうしてこれほど大げさにするのかと思っています。日本国大使館へのデモも、友人から聞くところでは作られたデモであって、たいしたことではない、とのことでした。日本語コンテストをやると決めて企業や大学に行くと次々に断られる。反日デモを口実にイベントをやりたくないのかな、と私の天然な受け止めだったのかもしれない。上海で日本人が殴られたとニュースになりましたが、これまで何回も日本人が殴られることはありましたから。私としてはよくあることだな、とっていて。

日本語をしゃべるなど言われたのは9月17日で、全国的なデモが行われて車が壊された

り日本のモールが壊されたりしたのですが、それは翌 18 日が（満州事変が始まる柳条湖事件のあった）中国と日本の大変な日だったわけで。

中国は、この時は、こういうことをやろうという時だというだけなのじゃないか、と。12 月は、北京は寒くてデモなどやるはずがないと思って、12 月にコンテストをやろうと決めたのです。

司会：日本に住んでいると分からない感覚かもしれませんね。

幸せになるための対話・スピーチ

司会：こういうふうにすると心が伝わるという点がありますか。

笈川：中国へ行ったときには中国と日本の授業のやり方は似ていると感じました。どちらも教師が一方的にしゃべり、学生達がそれを聞く。私が子供の頃に受けてきた授業と同じです。北欧などでは、小さい頃から討論したり、人前で発表したりする訓練を受けている。あ、これだ、と思いました。幸福度ランキングで中国も日本も軒並み低い。北欧は上位を独占している。私は、対話しなければいけない、と思い、スピーチを始めたのです。結果として私たちが幸せな気持ちになるのがゴール、スピーチを 1 年 2 年やってきた学生は皆から褒められたりしながら幸せな気分になるのです。日本でも対話やスピーチをしなくてはと思います。

スウェーデンに行った時、物価は高いし贅沢な暮らしをしている人はいないのに、でも幸せ、と。安全で、暮して行くに足りる収入がある日本ではほとんどの人が不幸せ。これは何だ、と。子供の頃から親や教師と対話して、国の未来は大丈夫、と言われると幸せになるのではと思います。ですから、中国ではスピーチを一生懸命やっていました。

司会：これは外国語教育というよりも、ことばと人生の本質そのものですね。

世界展開へ

司会：受講生は皆、笈川先生大好きで、ファンだと TV 画面を通して伝わりました。中国以外でも授業を展開されているのですか。

笈川：今コロナ時代なのでオンラインですが。前は色々な国に行っていました。

司会：このコロナは大変だったのではありませんか。この状況で何か笈川メソッドに加わった部分がありますか。

笈川：コロナ禍になってから、日本語教師に授業のやり方を伝える養成講座をしています。高齢者の方でも Zoom の使い方が学べる。80 歳のおばあさまがわーうれしい！できた！みたいな。で、学生達に対してはとにかく褒める。こことここ、ここが素晴らしかった、と。それを私ではない他の先生方がやってくれるようになりました。

司会：世界展開をなさっているのですね。

「逆転人生」に出た教え子の方が、日本で声優をなさっていると。びっくりしました。日本人でもなかなかできないお仕事ですから。

笈川：彼女が北京外国語大学 1 年生の時に、大学内部でコンテストがあり私が審査員を勤めたのですが、そこで初めて会いました。声に魂がこもる子でしたが、3分間のスピーチの中にアクセントの間違いが 120 個くらいあって、それを直さなければ！ということで、発音指導が始まったのです。

司会：笈川メソッドではアクセントや発音の比重が高いのですかね。

笈川：私のやり方で高いというより、元々中国の学生は北京語を学ばなくてはならない。北京の人と同じように話したいという雰囲気がありますから、日本語も日本の人と同じように話したい、と。

司会：社会言語学的に言えば prestige に向かう動機が強いということですね。

ことば村でも何回かお話をくださった鈴木孝夫先生が「タタミゼ」を唱えていらっしゃって、日本語を話すとき日本っぽく、畳の文化になる、という。笈川先生も日本語を学ぶとどこか心の変化があるとどこかでおっしゃっていましたね。

笈川：日本で働いている教え子、さっきの声優さんもそうですが、例えば著作権やゴミの出し方など日本のルールに忠実です。そういう変化はすごく感じます。日本に何回か来るだけで変わる。住んでいけば完全に日本の習慣になります。

日本語教師を目指す人々へ～これからの計画

司会：最後に、日本語教師を目指す方々にメッセージをいただけますか。

笈川：ワールドカップのサポーターが試合終了後にゴミを拾ったり、選手がロッカーをきれいにしたりする。日本語教師は授業を始める前に教室をピカピカにする、終わったらまたピカピカにする。日本語教師がするといいな、と私が思うのは、補欠メンバーがレギュラーにペットボトルを渡すような裏方になること。それをすると学生は、がんばります！となる。コンテストの時は早起きしてその子のために色々する。それがあったので本番を頑張ってくれたのかなと思います。日本人らしいこまかい気遣いをして頑張っていきましょう。

司会：日本語を伝えて日本文化を伝える、日本語と日本文化の両方なのでしょうね。グローバルな時代、私は個人的には日本文化が伝わると戦争が無くなると思っています。英語でも日本語でも共通だと思いますが文化を伝えることが大事な時代になってくると思います。これからも笈川先生の活躍を期待しています。これからの計画はどのようなものでしょうか。

笈川：来年の 1 月か 2 月に NPO 法人日本語スピーチ協会を作って、国内外の各地でスピーチ指導をしたいと思っていることと、毎年 50 人くらいの日本語教師に半年徹底的に色々なパターンを勉強してもらい、その 50 人に世界各地に飛んでもらい、そこで日本語が上手になった学生達が、日本で働いて幸せな生活をしてもらう。私が 100 人の先生に教えたらその先生が 100 人の学生を教える、すると 1 年に 1 万人の外国人が日本で働く。私が 10 年で 1000 人の先生に教えたら、毎年 10 万人の外国人が日本で働く。それができたらいいなあと思っています。

司会：素晴らしいです。今日は楽しいお話をありがとうございました。

以上

文責：事務局

★ 参考：くろしおスタジオ【日本語スピーチライブ】

笈川幸司先生とパペットのクロちゃんが、日本語学習者・留学生のスピーチコンテストをおこなう番組

<https://www.youtube.com/watch?v=w2DCak3YsqE>